



会報



DISTRICT 253
CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

ス キ ー

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 12:30 - 13:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 5775

会 長 上 野 三 郎
幹 事 佐 藤 順 治

全人類を 結びつけるために 奉仕せよ

SERVE TO UNITE MANKIND

W. ジャック・テービス

1977~78 国際ロータリー会長

第 943 号

1978. 1. 31 (火) (雪)

No.30

本日のプログラム

1. 点 鐘
2. ロータリーソング (手に手つないで)
3. ビジター・ゲスト紹介
4. 会 長 挨拶
5. 幹 事 報 告
6. 財団寄附について
7. ゲスト・スピーチ
8. 出 席 報 告
9. 点 鐘

鷺田幸雄君

住軽アルミニウム工業(株)

専務取締役 西田羊三氏

石川寿雄君

■ ビジター紹介

齋藤 福太郎君(農 業) 桜井 清君(歯科医)
笹本 森雄君(ホテル) 原田 行雄君(遠洋漁業) } 鶴岡西R.C
佐藤 成生君(金物配布)

■ 会長報告

1. 去る1月24日、三王プラザにおいて、第4回のクラブ協議会が開かれました。委員長20名出席されて年度前半の活動実績と後半の計画との調整ということで熱心に協議いたしました。協議決定された事柄については、今後の委員会活動に具体的にあらわれてくると思います。
2. 1月28日午後3時から分区内の会長・幹事が分区代理の主催で山王プラザに於て開かれました。主として I.C.G.F の打合わせでありましたが、開催日が当初は3月に予定のところホスト・クラブの都合で4月23日(日)に変更になりました。いずれ正式の案内がある筈ですが、ホスト・クラブの会長さん、幹事さんからは皆様から多数参加してほしいと、特にお願いがありましたので今から4月23日の予定を空けておいて下さるよう私からもお願い申し上げます。

■ 幹事報告

1. 会報到着
(1)石巻R.C (2)塩釜R.C (3)酒田東R.C (4)酒田R.C (5)尾花沢R.C

■ ゲストスピーチ 黄金の日々

住軽アルミニウム工業㈱

専務取締役 西田 羊三氏

NHKドラマ「黄金の日々」の呂宗助左衛門や、彼を取りまく堺の町衆の闊達能動的な生活意識は、室町時代という歴史土壌が育生したようです。この時代は後醍醐天皇の建武中興が失敗に終り、足利尊氏が征夷大将軍に就任した1337年に始まり、15代将軍義昭が織田信長により追放された1573年までの約250年間をいう。初期50年間は南北朝時代であり、中頃の応仁の乱より終末までの100年間は戦国時代と呼ばれ、吉野悲歌、逆賊尊氏や華々しい群雄武将の国盗り合戦などが時代印象を高めており、総体的には朝廷は衰微し百姓は疲弊のどん底に苦しみ、戦乱と一揆が全国に頻発した取得のない乱世であったというイメージが一般化しているようです。足利幕府の統活力が弱々しく権力分散の時代であるが、却ってこれが民族のエネルギーをかってないほどに高揚させる機会となり、文化も経済も著しい発展を遂げて社会全体が近代化の方向へ大きく変革した一面もっています。

丁度同じ頃ルネサンスを開花させた西洋と大変によく似た社会状態であったようです。西洋ではその後権力集中化の過程に入っているが自我の自覚という時代精神は正当に受け継がれて近代精神へと発展していったのに対して、我国では屈折がありすぎたために現代の日本人にとって室町は遠い過去の霧の中にぼやけた無縁のものとなってしまったようです。現在私達の心の奥底や日常生活感覚の中には室町時代の所産が色濃く投影しているようで、しかも江戸時代より得たものに比べて遙かに一種の明るさとか親近感を伴っています。助左のような海外に開かれた行動視点も現代そのものとして共感を覚えさせるのもそのためでしょう。

現代の平均的日本人がよい意味で伝統的だとか純日本風だとか呼んで郷愁或

いは洗練された誇りを成じる事柄の多くは室町人が創造し発展定着させたものです。日本は飛鳥時代より平安朝にわたり大陸輸入文化で過してきて、室町に入っても唐物趣味は一層激しくなり、流通貨幣ですら明の永楽銭が用いられた時代です。ところがこの時代に急速に発達した商工業を契機とした自我の確立と相まってかえって文化ナショナリズムが擡頭し、固有文化の形式が各分野に芽生え平安時代のかな文学、鎌倉時代の仏教革命と共にこの意味での大画期を果たした。

水墨画はもともと宋元よりもたらされたものの室町中期、雪舟に到り「大唐に師無し」といわせて日本の風土に定着した。対象を借りて自己の心を描いた日本最初の自由画家であり、その精神性の高い作品は後世の日本人の美意識に大きい影響を与えている。従来よりあった大和絵と水墨画との総合により永徳が狩野派を確立したのは末期であったがこれが現代日本画の中に生き続けている。観阿弥・世阿弥父子は従来の興福寺猿楽を改良して観世流能楽を始め、リアルな動きを押えて抽象化した形式の中に幽幻な心性を極度に高めた演劇は世界にその類を見ないまでに完成度の高いものです。もと宮廷にあった歌合せは連歌として国民上下の間に大流行をし、宗祇等の深化を得てのちの芭蕉俳諧につながって行く。日常の社交の場に高度な文学が多用されたことは時代の断面を視かせている。一方、池坊専慶は従来の唐物花器のコントロールにすぎなかった立花より、花そのものを主体にした現在の生け花を完成した。

茶は薬用の域を脱して一般喫茶の風が広がり闘茶会の一種のゲームとして盛んに催されたが、禅院などの書院茶を経て村田珠光に到り禅意と美意識の統一としての新境地が開かれて侘茶が生れた。生流転の中の一瞬に燃焼を求める特殊な芸術様式が生れ、孫弟子に千利久が出た。建築では南面に池泉庭園を配した寝殿造であったが、間仕切の多い書院造が開発されて疊の敷詰や床の間が起り、江戸初期の傑作である桂離宮を準備すると共に、和風建築の基調を確立した。これに対応し作庭では枯山水が始まり水使用に伴う地形や土木技術上の制約を脱却して石と若干の樹木により心象を象徴的に自由に表現して作庭に芸術としての位置を与え、大徳寺大仙院や竜安寺の石庭が造られた。

幽幻、渋さ、燻し銀などと呼ばれる美意識はすでに王朝文学にあらわれるが具象化されたのは室町です。一般に精神的緊張を内に秘め高度な洗練の境に到ったものが多く、ある意味では日本の史上最高の頂点に登りついた時代とも云える。

この頃西洋では十字車を契機に東西交易が発展しヴェネチア、ジェノア、フィレンツェ、ハンザ同盟等の商業都市が興り、新しい市民階層の中から人間個性の自由な発揮を求めるルネサンス運動が起り、文学芸術思想に変革が起きて近代社会への黎明がつけられていた。美術のレオナルドダビンチ、ミケランジェロやルター、カルビンの宗教改革など幾多の精神の創造的活動に満々た時代が東西時を同じくして迎えたのは大変興味深いことです。

この時代はまた手工業が農業より分離して各地に地方産業と地方都市が興り勢い商業が盛んになり、特に広域流通が飛躍的に発達した。貨幣経済が地方にも滲透しそのため為替制度が確立し問丸（倉庫運輸業）が全国の港津要地に常設され商業資本の蓄積が進み、町衆の勢力が強大になった。堺もその一つで自治権と自衛軍備を持った自由都市は稀有の存在であった。江戸商人の活動が大名の支配と統制のもとで行なわれたのとは根本的に性格を異にしている。土農工商の階級制は江戸時代に比べてはるかに稀薄であり、経済的実力と高い文化的教養により町衆の社会的地位は高く時代思潮の形成に大きい影響を与えたものと思われる。

守護大名により生駒、石見等銀を中心とした鉱山が盛んに開発され、当時の世界の総産出量の三分の一に達し海外貿易の挺になった。

前代に蒙古、高麗連合軍を撃退して自信を深めた西国豪族は早くから倭寇として大陸沿岸に進出していたし、異民族支配(元)の難をのがれて漢人系文化人の渡日が多く、大陸との絆を深めていたこともあり、この時代に日本人の眼が大きく海外に向けられた。収税能力の弱い幕府は初期より対明貿易に力を入れ財政補填をはかり西国大名、大寺院、町衆も挙って参加をした。

中頃以降、西洋では大航海時代を迎え12代将軍義晴のときポルトガル船が種子島に漂着し、西洋への窓が初めて開かれた。2挺の小銃を購入し1年後には国産化に成功したことは当時の金属加工技術が既に可成りの水準に達していたことを証明している。これより6年後イエズス会のフランシスザビエルが鹿児島、平戸、京都等で天主教の布教を始め、徳川家光の鎖国に至るまで約100年間日本と西洋との直接交渉が続き教会、学校、西洋医療所が建ち、人口の1%近くが入信したものと考えられる。この100年間、西洋ではコペルニクス、ガリレー、ケプラー等近代科学の萌芽が生まれ、デカルトが方法論叙説により西洋合理思想を定立したのが丁度鎖国の年であった。

荘園の崩壊に伴い農村構造の変化や、溜池式より河川灌漑の開発、稲の品種改良、二毛作の普及など農業技術の改良が進み、前述の2次3次産業の発展と相もなまってGNPが拡大したため国民人口が急伸張したといわれる。

追つめられてどうしようもない悲惨さのうちに押し潰された江戸時代の百姓一揆と較べて室町土一揆は規模、頻度ともに比較にならぬほど多く、時には自治権の確立、時には徳政に見られるような政令の変更すら行なわれるような可能性を持っている。議会制民主主義に連結して行く政治運動の一形体とも受けとめられる。下克上も流動社会の中における自由競争として現代的に理解することができる。要するに国民全体が階層を超え国境を超えて思う存分自己主張をしながら活動した時代である。

幕府は北山(金閣)、東山(銀閣)時代に表徴されるように、文芸に異常な力を入れ大名も根拠地を小京都になぞらえて文化導入に熱を挙げ一見矛盾しているようであるが血統貴種や宗教的権威も有効でなく、武力も頼りにならないこの時代に文化的権威が内蔵している政治的調整機能を評価した上での政策かもしれない。曲りなりにも250年間政権を世襲し世の中全体を近代化の方向に押し進めて行った足利政治家は不思議な存在である。現代と比べ情報、財貨の量が格段に違っていたこともさることながら物質的福祉の価値観がほとんど無かったのが大きい相違点であるが、西洋でもこれは17,8世紀に生れてきたものです。

ザビエルは日本人の倫理感覚の高いのに驚き、異教徒の中では最良の民族であり最も優れた宣教使を日本に派遣するようイエズス会に報告している。またオルガンチノは日本人よりもむしろ西洋人の方が文化的に野蠻であると記録している。室町時代の世界史の中で位置づけが分り、日本史上でも画期的な時代であったことが理解できます。

■ 出席報告

本出 日 の席	会 員 数	68名	欠 席 者	石倉君、斎藤(栄)君、佐藤(友)君、内山君、 鈴木(弥)君、高橋(良)君、吉野君
	出 席 数	61名		
	出 席 率	89.71%		
前出 回 の席	前回出席率	70.59%	メ ア ッ ク ブ	笹原君一仙台R.C 阿部(公)君、早坂(源)君 五十嵐(三)君、高橋(耕)君、中野(清)君、鷺 田君、高橋(良)君、富樫君、中村君、諸橋君 金沢一鶴岡西R.C 中江君一外国
	修正出席数	61名		
	確定出席率	89.71%		